

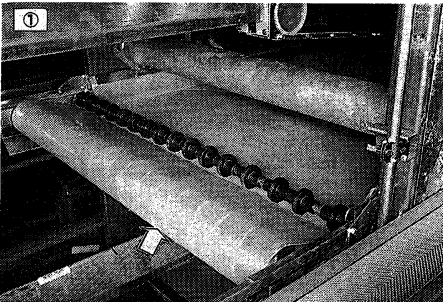
東洋システム

ハイテムサルメット除糞機

さらに使いやすい新シリーズ発売

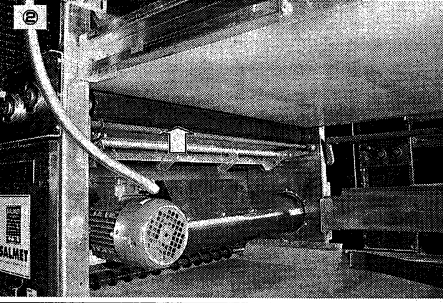
東洋システム(株)安田勝彦社長、本社・岐阜県各務原市金属団地九七(四)は、現場の声をきめ細かく吸い上げ、独サルメット社と共同で機械の改良に積極的に取り組んでいるが、ベルトケーシ性能のポインとなる除糞機に、いくつかの改善を折り込んだ新シリーズを春から発売することになった。改善点は次の通り。

①



一、ベルトダストオトリナー除糞機の鶏糞取り出しと反対側のベルト端はホリがたまってきたり、一週間に一回を目途に除去する作業が必要であったが、ベルト端ローラーをベバゲラル形状(写真①の矢印部分)にすることにより、ホリを自動排出できるようになった。

二、ノンスリップ駆動ローラーと通管二段の除糞ベルトを一台の駆動モーターで駆動するが、段毎のベルトがスリップして、除糞時にベルト位置がそろわない現象が見受けられたが、ピンチ側のローラーを除糞ベルト幅と同じ全幅とし、特殊ゴムライニングをする(写真②の矢印部分)ことによって完全ノン



スリップを可能にした。これにより、③除糞時間の無駄がなくなり④三〇度オートストップタイマーを組み込むことによって、除糞ベルトの糞側とケーシング内側との間に溜った鶏糞を除糞の都度へらなどで除去する必要がなくなり、ケーシング内の衛生環境が向上する。

一、シングルクリーンプレートサルメット除糞機は、鶏糞出口に二重刃(ダブルブレード)を使用し、除糞プレードのクリーニング性能には定評があったが二枚の刃の間に溜った鶏糞を除糞の都度へらなどで除去する必要があった。このためシングルプレートは、刃のベークスに新設計の補強を入れかつつ刃の位置を工夫することによって、シングルブレードでもダブルブレード並みのクリーンさを実現することに成功した。

なお、既設のハイテムサルメット向けに、新シリーズ仕様に変更可能なバージョンアップキットも同時発売した。